

平成29年度

2次医療圏地域・職域連携推進協議会

及び

ワーキング会議の開催状況



医療圏 (保健所)	地域・職域連携推進協議会内容	地域・職域連携推進ワーキング内容	連携事業
尾張西部 (一宮)	<p>【内容】</p> <p>(1)平成27年度からの尾張西部圏域地域・職域連携推進事業の取組の結果及び評価</p> <p>(2)次年度からのテーマについて</p> <p>【評価指標に基づく結果・考察】</p> <p>○ 各市の行政区別課題に基づいて、行動目標、具体的行動目標、行動する人を決め関係機関が取り組みを実施した。</p> <p>○ 評価の視点が弱いため、資料を①課題、②計画、③実施内容や結果、④評価、⑤次年度計画が一連の流れで分るようにした。</p> <p>○ 連携ネットワークの構築の要望が出ていたため、連携マニュアルに当たる「連携一覧表」、「メールリスト」を作成した。</p> <p>(結果)</p> <p>○ 昨年度より、評価の視点に重点を置き助言者より助言いただき具体的な評価方法が理解できた。また、資料もPDCAサイクルの流れで作成したことにより、経験年数が少ない担当者でも記載することができ、各事業で分析、評価が行われ、その上で、協議会で次年度のテーマについて検討できた。</p> <p>○ 関係機関も市や保健所の事業について何を目標しているのか整理でき、そのうえで関係機関として何ができるのかという議論ができた。</p> <p>○ ワーキングから情報共有のためのネットワークづくりの要望が出たので、「連携一覧表」の作成、運用上の取り決めに決定することができた。また、タイムリーな情報共有を目指し、メールリストを作成することになった。活用や効果は、今後の経過をみる必要がある。</p>	<p><第1回></p> <p>平成29年7月13日(木)</p> <p>【内容】</p> <p>(1) 尾張西部圏域地域・職域連携推進事業について</p> <p>(2) 尾張西部圏域地域・職域連携事業一覧表について</p> <p>(3) 情報共有について</p> <p>(4) 今年度の事業計画について</p> <p><第2回></p> <p>平成30年1月11日(木)</p> <p>【内容】</p> <p>(1) 尾張西部圏域地域・職域連携事業一覧表について</p> <p>(2) 平成27度からの地域・職域連携推進事業の取組みについて</p> <p>(3) 次年度の取組みについて</p>	<p><地域・職域連携推進ワーキング 第1回></p> <p>【成果】</p> <p>全体として</p> <p>① 行政区ごとの健康課題を意識して検討し、データ指標の良くない地域での取組を強化することができた。</p> <p>② 数年で各機関が連携協力できる事業が増加し、保健所以外で連携する機関が増加</p> <ul style="list-style-type: none"> 市とユニー(株)、その他の機関が協働し事業を実施、前年度の講師によるユニー(株)新規事業とそれによる要医療者への指導など。 会議録から、市が新たに商工会議所、薬剤師会と連携し啓発活動を実施。 <p>③ 協働することにより、他の面でも連携がしやすくなった。</p> <p>④ 記入することでPDCAサイクルを考えることができる様子を資料とし、また、助言者による評価への助言により、評価の視点を持つことができた。</p> <p><地域・職域連携推進ワーキング 第2回></p> <p>【成果】</p> <p>保健所の事業として</p> <p>①特定健診受診勧奨のための啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> チラシの配布(商工会議所会員、一般市民) 前年まで保健所の作成だったが、関係機関と協働作成とした。 啓発物の配布 健康指標の良くない地域での、他機関と協働した啓発活動を2回追加した。 各市健康まつりで、幼児から高齢者まで連携して啓発できた。 <p>②糖尿病に関する研修会、啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ユニー(株)と協働で、テラスウォーク一宮において地域・職域連携推進協議会のメンバーで健康教育、生活習慣病に関する研修会・啓発活動を実施。 日ごろ関わらない住民や若い世代の住民、受診率や健診データの低い地域の住民にも啓発ができた。 市民病院の講師を依頼することにより、院外でのアプローチを希望する市民病院と連携することができた。また、次の連携の取組の意見も聞かれた。

地域・職域連携推進協議会内容

地域・職域連携推進ワーキング内容

連携事業

<p>尾張西部 (一宮) 続き</p>			<p>③前年度、連携のための情報共有ネットワークの要望があり、メールリスト、連携一覧表など連携を強化するツールの作成をした。</p> <p>④3年間の事業評価、次年度の取組について、多機関で検討できた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 啓発活動の評価ができるデータが少ない。 ○ 行政区という小さい単位のデータ分析は国保データしかなく、職域の分析が十分できない。 ○ まだまだ、連携は充分でなく、連携一覧表の管理や有効活用についてみていく必要がある。
<p>尾張東部 (瀬戸)</p>	<p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 平成29年度地域・職域連携推進事業について 2 平成30年度地域・職域連携推進事業計画(案)について 3 その他 <p>【評価指標に基づく結果・考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所の集会や、商工会会員に向け、特定健診・がん検診の案内ちらしを5000枚配布した。 ・事業所の事業主や健康管理担当者に対して、健康経営に関する講話を実施した。 ・商工会健康診断会場で、受診者向けに、生活習慣病予防に関する健康教育を実施した。 ・関係機関の連携促進のため、互いの業務の理解を深められるよう、作業部会では、取組み紹介や、小グループによる意見交換会を実施した。 ・本協議会構成機関と連携したことで、事業所に向けて、健康づくりに関する情報提供の機会を昨年度よりも増やすことができた。 ・作業部会等を通して、保険者と商工会、労働基準協会を繋ぐ働きかけができ、次年度事業について、連携した取組みを促すことができた。 	<p><第1回> 平成29年6月16日(金)</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 尾張東部地域の健康情報について 2 平成29年度地域・職域連携推進事業計画について 3 意見交換「働き盛り世代に、地域の保健事業を有効に活用してもらうために、地域から職域に向けてどのような働きかけができるか」 <p><第2回> 平成29年10月4日(水)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 尾張東部地域の健康情報について 2 実践報告 各機関の取組み紹介 3 情報提供「健診結果を活かして、より健康になろう」 4 意見交換「健診受診者に健診結果を活かしてもらうための働きかけ方を考える」 	<p><地域・職域連携推進ワーキング 第1回></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の健康情報から課題を確認した ・市町が、若い世代や職域を意識して実施している健康づくりの取組みについて情報交換できた <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率は高いものの、特定保健指導終了率は、年によりばらつきがある。健診結果を踏まえて、生活習慣病を予防するための次の行動につながっていない可能性がある。 <p><地域・職域連携推進ワーキング 第2回></p> <p>【成果】</p> <p>小グループで話し合うことで、関係機関の役割を理解したり、交流を深めるきっかけとすることができた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異動等により、ワーキング出席者が変わるため、本事業の目的や、各機関の役割等について、繰り返しの啓発が必要。 ・健診結果を活かしてもらうためには、受診者に結果を渡す時に一工夫できるとよい。
<p>尾張北部 (春日井)</p>	<p>平成30年2月21日(水)</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 尾張北部圏域の健康課題について (2) 平成29年度地域・職域連携推進事業について (3) 各市町・保健所等における職域を意識した取り組み (4) 平成30年度地域・職域連携推進事業(案)について <p>【結果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 医療圏の健康情報としてのデータ(受診率や特定健診の結果、EBSMR)より地域の健康課題を共通認識することができた。 2 各機関の連携した取組み状況や、取組むべき課題(受診率の向上、健診結果を活かす、事業主への健康経営の啓発、無関心層への情報発信)について共 	<p><第1回> 平成29年6月29日(木)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 尾張北部医療圏域の健康課題と取組について 2 職域と地域保健の連携した健康づくり事業の取組報告 <ol style="list-style-type: none"> (1) あいち健康づくりチャレンジ推進事業 (2) 働く世代の歯周病対策の推進 (3) 職域での健康づくりと行政に望むこと (4) 協会けんぽの健康宣言と協定自治体との連携事業について <ol style="list-style-type: none"> 3 意見交換 健康マイレージ事業を事業所(働く世代)へ活用推進させていくには 4 健康づくり出前講座の実施及び、健康づくりガイド8号の作成配布 	<p><地域・職域連携推進ワーキング 第1回></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の健康課題や各機関が実施している地域職域の関係事業を共有することができた。 ・各市が取り組んでいる健康マイレージ事業を職域で活用するための情報交換、検討ができた。 ・「健康づくり出前講座」の実施体制及び保健事業情報誌「健康づくりガイド」発行に向けての体制を整えることができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりに対する無関心層へのアプローチについて ・関係機関と協働した取組

	地域・職域連携推進協議会内容	地域・職域連携推進ワーキング内容	連携事業
<p>尾張北部 (春日井) 続き</p>	<p>有した。健康づくり情報の発信について新たに薬剤師会の協力が得られる旨の意見をいただくことができた。</p> <p>【評価指標に基づく結果・考察】</p> <p><評価指標1></p> <ul style="list-style-type: none"> 働く人のための健康づくりガイド第8号 2200枚配布。商工会議所・商工会、地域産業保健センターの協力を得て職域に啓発を行った。今後も職域も活用できる行政の事業や、健康情報の発信の継続が必要である。 出前講座15事業所(団体)延21回開催し、845人が受講した。 <p><評価指標2></p> <ul style="list-style-type: none"> 受動喫煙防止対策実施施設認定施設数(43施設) 健康づくりマイレージ事業 マイカ発行枚数(1855枚)(平成29年4月～12月発行枚数)、協力店認定数(12件) 健康づくりマイレージ事業の周知については、市町、商工会議所、食品衛生協会と協力して実施できた。特に、「働く人のための健康づくりガイド」の内容に健康マイレージ事業を入れ、職域の参加を呼び掛けた。しかし、青壮年期のマイカ発行割合は低い状況がある。働く世代は健康づくり無関心層が多いと考えるため、事業所単位でマイレージに取り組むよう働きかける必要がある。 <p><評価指標3></p> <ul style="list-style-type: none"> 医療圏の健康情報としてのデータや、各機関の取組、課題の情報交換より、今後に必要な取組や、各機関の役割や連携の必要性について意見交換し、共通認識を持つことができた。課題解決のため、地域の関係団体と連携した効果的な取組を検討していく。 	<p>について</p> <p><第2回></p> <p>平成29年12月14日(木)</p> <ol style="list-style-type: none"> 取組紹介 糖尿病性腎症重症化予防事業プログラムの構築について 講演 糖尿病性腎症重症化予防 講師 腎臓内科専門医 意見交換 生活習慣病対策について ～健診有所見者が放置しないための取組を考える～ 	<p><地域・職域連携推進ワーキング 第2回></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 専門医の講話により、関係者が重症化予防の重要性を改めて確認できた。また、重症化予防事業の推進には医療機関等との連携の必要性も再認識した。 市町の重症化予防対策の取り組みについて情報交換を行うことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> 医師会等との連携について 受診率向上と、有所見者が放置しないための取組
<p>尾張中部 (清須)</p>	<p>平成30年2月27日(火)</p> <p>【内容及び結果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 平成29年度尾張中部医療圏地域・職域連携推進事業の実施結果について (1)当医療圏の健康課題と今年度の事業実績及び課題について 当医療圏の健康課題について最新のデータ(SMRや特定健診データの市町村順位等)を提示し、当地域の健康問題を共通認識することができた。 また、今年度に地域と職域が連携して取り組んだ事業実績を計画に基づき、以下の内容等について報告。目標を上回って達成できた成果と、事業ごとの課題について共有し、意見交換ができた。 <ul style="list-style-type: none"> 中小事業所従業員を対象とした健康づくり出前講座の実施 受動喫煙防止の認定施設の増加 商工会健診受診者を保健指導につなげるためのシステム作り 商工会健診データの分析 等 (2)各市町商工会健診時における健康教育の取組について 今年度の市町商工会健診データの分析及び市町商工会健診時のアンケート結果を提示し、職域の健康課題の現状について理解し意見交換ができた。 平成30年度尾張中部医療圏地域・職域連携推進事業について 今年度の取組評価と課題に基づいて、次年度に課題解決のために可能な方策 	<p><第1回></p> <p>平成29年6月14日(水)</p> <p>議 題</p> <ol style="list-style-type: none"> 当医療圏における健康課題と地域・職域連携推進事業について <ol style="list-style-type: none"> これまでの取り組みと当医療圏の健康課題について 清須市商工会健診データの分析結果について 北名古屋市商工会健診データの分析結果について 平成29年度尾張中部医療圏地域・職域連携推進事業について <ol style="list-style-type: none"> 平成29年度尾張中部地域・職域連携推進事業計画について 事業所の健康づくりについて <ol style="list-style-type: none"> ①ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株) ②(株)エムエス製作所 グループワーク Aグループ(市町保健部門・市町商工会・協会けんぽ) Bグループ(職域関係機関) <p><第2回></p> <p>平成29年12月13日(水)</p>	<p><地域・職域連携推進ワーキング 第1回></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 圏域内の健康課題と地域・職域連携による健康づくりの必要性、今年度事業計画について共通理解ができた。 ポッカサッポロフード&ビバレッジ(株)と北名古屋市との協働事業、(株)エムエス製作所の健康づくり、清須市商工会での協会けんぽ健診利用をはじめ、様々な職域での健康課題や健康づくり対策について情報交換ができ、必要な新たな取り組みについて検討することができた。 中小企業で働く人の健康づくり推進のため、今年度の具体的取り組みについて、関係者間で確認できた。 <p><地域・職域連携推進ワーキング 第2回></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度の地域・職域連携推進事業の取り組み実績を共有できた。 今年度の地域・職域連携推進事業の実績を踏まえての課題、商工会健診データと健康教育アンケート分析による健康課題を

	地域・職域連携推進協議会内容	地域・職域連携推進ワーキング内容	連携事業
尾張中部 (清須) 続き	<p>について意見交換ができた。</p> <p>【評価指標に基づく結果・考察】</p> <p>1 中小事業所の従業員や家族への『健康づくり出前講座』の実施回数 出前講座の目標実施回数は3回/年のところ、協議会作業部会等で検討した結果商工会の協力を得ることができ、平成29年度は5回実施することができた。地域・職域連携として3年計画を明示することで目標を共有することができ、それが積極的な連携に繋がった成果と思われる。</p> <p>2 『タバコダメダス認定施設』の施設数 タバコダメダス認定施設数については、12医療圏中最下位の状況や喫煙率が高い状況は続いているが、平成29年度は11カ所の新たな認定があった。</p> <p>3 協議会及び作業部会の開催回数と協議内容・会議参加者の発言内容等 協議会（年1回）と作業部会（年2回）は当初の予定どおり開催できた。会議では前述のとおり健康課題を共有することができ、協力や解決に向けての活発な意見交換が行われ、前年度は2市町商工会の健診データ分析となっていたが、今年度は3市町商工会（管内全て）から健診データ分析に協力を得られた。このことから、市町と商工会担当者が市町と商工会の連携効果について実感を深め、さらに地域職域の連携による健康づくり体制構築の必要性についての認識も深めていると考える。</p>	<p>議 題</p> <p>1 平成29年度尾張中部医療圏地域・職域連携推進事業の評価について</p> <p>1) 今年度の事業計画と取り組みの内容について</p> <p>2) 各市町商工会健診結果及びアンケート分析結果について</p> <p>3) 協会けんぽにおける事業所の健康づくりについて</p> <p>2 平成29年度尾張中部医療圏地域・職域連携推進事業について</p> <p>1) グループワーク</p> <p>A グループ（清須市の地域と職域関係者）</p> <p>B グループ（北名古屋市の地域と職域関係者）</p> <p>C グループ（豊山町の地域と職域関係者）</p>	<p>共有することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市町ごとに作業部会メンバーで、地域課題を抽出し共有することができた。 ・市町ごとに作業部会メンバーで、今後連携して実施したいこと、実施できそうなことを話し合うことができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職域保健関係者が従業員の健康づくりのために有効活用できるような、地域社会資源の提示がされていない。 ・一部の商工会健診について、健診結果が保険者に提供されることとなっておらず保健指導につなげることができていない。
海 部 (津島)	<p>【内容】</p> <p>① 海部地域の健康課題について</p> <p>② 平成29年度津島保健所職域への取組について</p> <p>③ 生活習慣病発病予防及び重症化予防対策について</p> <p>④ 平成30年度津島保健所地域・職域連携事業計画について</p> <p>【結果】</p> <p>① 海部地域の健康課題や現状、各関係機関での取り組みの課題等について、関係者で共有し、目指すべき方向性を確認した。</p> <p>② 課題に基づいた平成29年度の取り組みの具体策について提案し、関係機関と連携して実施していくことを確認し、了承を得た。</p> <p>【評価指標に基づく結果・考察】</p> <p>評価指標</p> <p>① 生活習慣病予防、重症化予防に関する情報発信・健康教育の回数 (企業数・従業員数)</p> <p>② 講演会参加者へのアンケート結果</p> <p>③ 市町村の特定健診・特定保健指導の受診率・終了率</p> <p>④ あいち健康マイレージ事業におけるマイカ発行数</p> <p>結果</p> <p>① 情報発信：</p> <p>ア 労働基準協会の会報誌への健康情報誌の同封による配布(500部)喫煙対策、出前健康教育等の周知(6月1日号)、歯周病予防(11月1日号)。</p> <p>イ 食品衛生協会主催の講習会で健康情報誌、受動喫煙防止認定施設登録</p>	<p><第1回></p> <p>平成29年7月5日(水)</p> <p>1 保健所における平成29年度実施計画について</p> <p>2 海部地域における啓発活動について</p> <p>3 海部地域普及強化月間キャンペーンについて</p> <p><第2回></p> <p>平成29年10月19日(木)</p> <p>1 海部地域の健康課題と各機関の取り組みについて</p> <p>2 健康課題の解決に向けた地域と職域の連携について</p>	<p><地域・職域連携推進ワーキング 第1回></p> <p>【成果】</p> <p>1 保健所としての今年度の事業内容(若い世代への歯周病予防対策)の説明の中に、市町村との関係の持ち方なども含め、出席者から意見をもらい、了解を得た。</p> <p>2 保健所、市町村におけるデンタルフロスをテーマにした普及啓発計画を共有し、意見交換を行い、より有効な活動を検討することができた。</p> <p>3 11月に普及強化月間を行うにあたり、使用するキャッチフレーズを決定し、啓発用チラシ案の意見をもらい、より効果的なアピール方法について検討できた。</p> <p><連携事業></p> <p>市町村と保健所で一緒に強化月間を決めて、集中的に働きかけを行うことにより、より大きな周知を図る。</p> <p>【課題】</p> <p>若い世代として、20歳から30歳代を対象としたが、働いている世代であり、市町村事業での関わりの中でのとなると、乳幼児健診時に関わる保護者が主な対象となり、世代全体への働きかけは難しい。</p> <p>市町村によっては、ガソリンスタンドや農協などに出向き、啓発物品の配布を行う予定をしているところもあるが、協力が得られる事業所は限られ、活動の拡大方法は検討を要す。</p>

地域・職域連携推進協議会内容

地域・職域連携推進ワーキング内容

連携事業

<p>海 部 (津島) 続き</p>	<p>の案内、あいち健康マイレージ事業協力店募集のちらしの配布 (1, 568 部) 生活習慣病予防。</p> <p>ウ 理美容協会主催の講習会で歯と口の健康のリーフレット、あいち健康マイレージ事業協力店募集のちらしの配布 (150 部)</p> <p>健康教育：</p> <p>ア 労働基準協会主催の全国労働衛生週間説明会 (9/6) で圏域健康づくり推進特別事業研修会として講演会を実施。 内容：「受動喫煙防止とその対策」 講師：人間環境大学教授 出席者：153 名 (137 事業所) 出席者へのアンケートの結果は、回答：83 事業所/137 事業所 回収率 60.6%、「大変よかった」「よかった」が合わせて 45 事業所 (54.2%)、「ふつう」が 26 事業所 (31.3%)、「よくなかった」「全くよくなかった」が合わせて 3 事業所 (3.6%) であった。</p> <p>イ 事業所からの依頼があり、生活習慣病予防と歯の健康管理について出前健康教育 (10/23, 25 参加者 100 名) を行った。 実施した事業所は、保健所での出前健康教育を知らずに連絡のあった事業所であった。平成 28 年度までに事業所への出前健康教育については、労働基準監督署及び労働基準協会主催の説明会や会報配布などの機会の度に周知を行い、ある程度周知できたと判断していた。また、平成 28 年度に 7 か所の事業所で出前健康教育を実施し、平成 29 年度以降も継続開催予定となっていたため、今年度は積極的に周知を行わなかった。しかし、平成 28 年度に健康教育を実施した事業所の一部に平成 29 年度の開催について連絡しても反応がなく、その他、新規の事業所からの申込みもなかった。</p> <p>② 圏域健康づくり推進特別事業研修会として開催した講演会の出席者にアンケートを実施し、結果は上記のとおり。</p> <p>③ 各市町村の特定健診の受診率は少しずつ増加しているが、特定保健指導終了率は、市町村によってバラバラで、年によってばらつきも大きい。受診率向上に向けて各市町村が工夫して取り組んでいる。</p> <p>④ 平成 28 年度から管内 7 市町村全部で事業が実施されるようになり、各市町村がそれぞれ工夫して取り組んでいること等により、平成 30 年 2 月末でマイカ発行数は 3,658 枚で、昨年度同期の 2,797 枚よりかなり増加している。</p> <p>考察 生活習慣病予防、重症化予防に関する情報発信・健康教育については、健康情報誌の発行について、効果の評価は難しいが、労働基準協会の会報誌への同封や食品衛生協会主催の講習会など機会を見つけて継続して配布することによって、少しずつでも周知につながると考える。また、商工会議所及び商工会の会報や健診会場での配布が平成 29 年度は実施できなかったため、再開し、より効果をあげられるとよい。健康教育については、圏域健康づくり推進特別事業の研修会の内容が受動喫煙対策についてであり、受動喫煙対策について体系的に伝え</p>	<p><地域・職域連携推進ワーキング 第 2 回></p> <p>【成果】</p> <p>1 統計データを基に海部地域での健康課題と各機関の今年度の取り組み状況と課題について共有し、情報交換と意見交換を行うことによって、それぞれの事業の理解を深め、各機関が今後の業務の参考にできるよう整理ができた。</p> <p>2 昨年度末には、管内全市町村が全国健康保険協会愛知支部と協定を締結したため、連携事業が各市町村と同支部との間で個別で行われているため、他の市町村での連携状況を知る機会となり、各市町村として、今後の連携の参考とすることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>平成 28 年度に海部全域での取り組みとして、糖尿病発症予防、重症化予防について、全国健康保険協会愛知支部及び市町村と協働して具体的な検討を行い実施していくこととしていたが、今年度は、現状の連携のみで具体的な取り組みの検討までいたらなかったため、来年度以降、行う必要がある。</p>
----------------------------	---	--

地域・職域連携推進協議会内容	地域・職域連携推進ワーキング内容	連携事業
<p>海 部 (津島) 続き</p> <p>られよかったが、健康増進法が改正予定であり、改正後の方がより効果的で、関心も高まったと考える。出前健康教育について、健康情報誌や労働基準監督署主催の説明会の際の周知に加え、圏域健康づくり推進特別事業の研修会の際のアンケートで事業所からの希望を把握し、こちらからアプローチできるような内容を追加するとよい。</p> <p>市町村の特定健診・特定保健指導の受診率・終了率については、未受診者等の支援対象者に対して、個別に粘り強く関わる中で受診となる事例もあるため、担当者間の情報交換をしながら効果的な対応策を検討していく必要がある。</p> <p>あいち健康マイレージ事業については、今後は、事業所単位でマイレージ事業に取り組む事業所の増加に向けた働きかけを積極的に行っていけるとよい。</p>		
<p>知多半島 (半田)</p> <p>【内容】</p> <p>1 平成 29 年度知多半島医療圏地域・職域連携推進事業の報告について</p> <p>(1) ワーキンググループの開催状況について</p> <p>がん検診受診率向上の取組内容と月別受診者数の推移について</p> <p>(2) 各機関の取組状況について</p> <p>2 知多半島医療圏の各健診（検診）状況及び結果等について</p> <p>3 平成 30 年度知多半島医療圏地域・職域連携推進事業の活動方針(案)について</p> <p>【結果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域・職域連携推進事業の今年度の取組目標と取組に対する結果について報告し共有することができた。また、各関係機関からがん対策についての今年度の取組内容や結果について情報共有することができた。 ・知多半島医療圏の健康課題や現状を関係者で共有する中で、肺がん検診の受診率向上のため、特定健診と同時に胸部 X 線検査が受けられる体制整備や、市町と協会けんぽとの連携事業によるがん検診受診率向上のための取組等、関係機関と連携した事業の取組について情報交換ができた。 ・次年度の連携事業取組について提案し、関係機関で共有し了承を得た。 <p>【評価指標に基づく結果・考察】</p> <p>1 管内市町のがん検診受診率の向上、精検受診率の向上</p> <p>知多半島医療圏における 28 年度の各種がん検診の推計受診率は、27 年度と比べ、胃がん検診は 9.4%から 9.1%へ、肺がん検診は 35.0%から 32.8%へ、大腸がん検診は 23.5%から 20.6%へ、子宮がん検診は 25.6%から 25.6%へ、乳がん検診は 24.3%から 24.0%へと低下した。胃がん検診は医療圏の中でワースト 2 位のままであり、県平均（17.1%）より低く、大腸がん検診も医療圏の中でワースト 2 位のままであり、県平均（28.9%）より低い。</p> <p>28 年度の当医療圏の精検受診率は、27 年度と同様、全てのがんで県平均よりも低い状況であった。特に子宮がん検診 59.9%（県平均 74.1%）、大腸がん検診 60.8%（68.6%）が低かった。</p> <p>2 知多半島医療圏では、男性の気管・気管支炎及び肺がんの標準化死亡比は高く、平成 23 年から平成 27 年では 100 以下の市町は 3 市町であった。</p>	<p><第 1 回></p> <p>平成 29 年 6 月 14 日（水）</p> <p>1 講話</p> <p>「地域保健及び職域保健関係者が協力して住民の健康を支援する」</p> <p>2 議題</p> <p>(1) 昨年度までの取組と今年度の課題について</p> <p>(2) 今年度の取組について</p> <p><第 2 回></p> <p>平成 29 年 11 月 13 日（月）</p> <p>1 今年度の目標への取組状況について</p> <p>(1) 各機関の現在までの取組について情報交換</p> <p>(2) がん検診受診率向上の取組内容と月別受診者数の推移について</p> <p>2 次年度の連携推進事業について</p> <p>(1) 知多半島医療圏の健康課題について</p> <p>(2) 生活習慣病対策に関する各機関の課題について</p> <p>(3) 次年度の取組課題について検討</p>	<p><地域・職域連携推進ワーキング 第 1 回></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講話により、地域と職域とが連携して共通の健康課題に取り組む必要性について共通認識が得られた。 ・知多半島医療圏の課題や昨年度の取組について共有し、今年度の取組の方向性について情報交換することができた。 ・各関係機関のがん検診についての課題や、今年度の取組内容及び月別受診者数の状況について、意見交換を行うことができた。 ・会議で話題にしたい内容についても情報交換ができ、関係者で共有することができた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の取組の方向性については協議できたが、具体的な評価指標をどうするかというところまで検討することができなかった。 ・職域保健におけるがん検診は義務でないため、がん検診の受診率向上に対する取組を効果的に進める上で理解が得られにくい。 <p><地域・職域連携推進ワーキング 第 2 回></p> <p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度の各機関の取組状況や進捗状況について共有することができた。 ・知多半島地域の死因から見た健康課題、特定健診の結果等から、各機関が抱えている健康課題、優先したい課題等について情報交換することができた。 ・がん検診受診率向上の取組内容と月別受診者数のシートについて各担当者から意見を聴き、蓄積されたデータから課題を分析し、事業を展開することについて理解が深まった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次年度の取組について、時間の許す限り意見交換をすることができたが、結論には至らなかった。各関係機関と協働した取組

	地域・職域連携推進協議会内容	地域・職域連携推進ワーキング内容	連携事業
知多半島 (半田) 続き	<p>女性の大腸がんの標準化死亡比は高く、100以下の市町はなかった。胃がん、子宮がんの標準化死亡比は、100以下の市町はいずれも4市町であった。</p> <p>今後も標準化死亡比と関連づけながら、がん検診受診率及び精検受診率の向上のため、地域及び職域と連携を図り取り組んでいく。</p>		<p>ができるよう検討する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職域との連携が課題である。
西三河北部 西三河南部西 (合同) (衣浦東部)	<p>【内容及び結果】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 二次医療圏毎の就労世代の実態の把握 生活習慣病に関する医療・保健データの収集、整理を行う *医療計画策定に併せたアウトカムデータの確認 2 作業部会の開催 1回 平成30年1月24日(水) 出席者19名 各市地域保健担当者、在宅医療中核センター職員、保健所職員 ・地域保健健康課題に関する情報交換 ・職域連携の進め方に関する検討 3 推進会議の開催 1回 平成30年3月22日(木) 出席者43名 健康保険組合等保険者、事業所保健師、労働基準協会、商工会、各市国保及び地域保健担当者、保健所職員 ・先進連携(協働)事例報告 ・健康対策課より情報提供(「健康経営」の推進支援事業等) ・情報交換 ・リーフレット「～働き盛りの健康づくり応援情報～」の内容更新 <p>【評価指標に基づく結果・考察】</p> <p>第1回作業部会後に、協議会を開催する予定であったが、今年度は協議会の開催は見送り、会議の形で開催した。</p> <p>主に地域保健関係者による作業部会では、健康課題データを地図データに見える化し、共有することができたが、対策等について柔軟に検討するには至らなかった。</p> <p>しかし、各市では創意工夫した連携事業の実施があり、次年度の動きを見据えた内容を併せ、情報共有と検討の機会として会議を設定した。終了時アンケート調査では、各市の取組み紹介が好評であった。</p> <p>また、平成22年度からがん検診等の案内として発行しているリーフレット「～働き盛りの健康づくり応援情報～」に、肝炎ウイルス検査等の現在行っている対策を追加することとした。</p> <p>さらに、同時に行ったアンケート調査から、保健行政職員の「コラボヘルスガイドライン」に関する認知度が低い状況が明らかになった。</p> <p>健康保険組合の出席者からは、「企業のトップへのアプローチが必要である」との意見が寄せられており、アプローチ方法と内容について、戦略を練る必要があると考えられた。</p>	<p><第1回> 平成30年1月24日(水)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域保健健康課題に関する情報交換 ・職域連携の進め方に関する検討 <p><第2回> 平成30年3月22日(木)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先進連携(協働)事例報告 ・健康対策課より情報提供(「健康経営」の推進支援事業等) ・情報交換 	<p><地域・職域連携推進ワーキング 第1回></p> <p>【成果】 今回提供した健康課題については共有できた。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提示した課題以外の各市の課題の全体像について把握できていない。 ・見えている課題について、柔軟に検討するところまでに至らなかった。 <p><地域・職域連携推進ワーキング 第2回></p> <p>【成果】 各市の取組み紹介が好評であった。</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職域分野では、複数の事業所を担当する健康保険組合と、単独事業所の健康保険組合とでは、課題は一律ではなく、取組みの方向性を十分検討する必要がある。 ・また、職域分野と地域分野とで、必要な情報の認識上のギャップが生じている。

地域・職域連携推進協議会内容

地域・職域連携推進ワーキング内容

連携事業

<p>西三河南部東 (西尾)</p>	<p>平成 30 年 2 月 14 日(水)</p> <p>【内容】</p> <p>1 あいさつ</p> <p>2 内容</p> <p>(1) 報告</p> <p>ア 地域・職域連携の推進について</p> <p>イ 西三河南部東医療圏の主な健康等の情報について</p> <p>ウ 今年度の西三河南部東医療圏地域・職域連携推進事業の取組み状況について</p> <p>(3) 議題</p> <p>平成 30 年度西三河南部東医療圏地域・職域連携推進事業計画(案)について</p> <p>3 情報提供</p> <p>(1) 第 3 期特定健康診査等実施計画について</p> <p>(2) 職域におけるがん検診について</p> <p>【結果】</p> <p>質問等はなく、次年度の計画について承認された。</p> <p>【評価指標に基づく結果・考察】</p> <p>○ 作業部会を中心とした関係機関の参加状況</p> <p>商工会議所等の欠席はあったが、出席者は皆活発に意見交換出来た。継続して実施することで、異動でメンバーが変わることがあっても、この部会は、参加各機関に定着しているものと思われる。</p> <p>○ 事業の企画検討及び実施状況</p> <p>作業部会では必ず、健康指標を提示し、参加者間で情報交換できるようにした。また、労働基準監督署とがん拠点病院に情報提供を依頼し、地域と職域が情報を共有できるようにした。</p> <p>昨年度、取り組んだ健康情報紙について作業部会で話し合ったところ効果が見られなかったこと、市町の健診(検診)の周知はすでに個別に実施していることから、継続は不要と判断し、中止した。事業について漫然と行うのではなく、見直しする必要性を感じた。</p> <p>○協議会による連携事業の推進(協議会への参加状況、事業に対する理解度)</p> <p>都合により 3 名欠席があったものの、特に質問なく認められた。次年度からは、毎年健康課題として上がる項目について、分析していきたいと説明したところ、分析の方向性に関する助言をいただけ、参考になった。</p>	<p><第 1 回></p> <p>平成 29 年 6 月 23 日(金)</p> <p>1 内容</p> <p>(1) 報告</p> <p>ア 西三河南部東医療圏の主な健康指標等について</p> <p>イ 平成 28 年度西三河南部東医療圏地域・職域連携推進事業の取組み結果</p> <p>(2) 議題</p> <p>ア 平成 29 年度西三河南部東医療圏地域・職域連携推進計画について</p> <p>イ 今後の地域・職域連携推進事業に向けての意見交換</p> <p>(3) 情報提供</p> <p><第 2 回></p> <p>平成 30 年 1 月 10 日(月)</p> <p>1 内容</p> <p>(1) 報告</p> <p>ア 圏域の主な健康等の情報について</p> <p>イ 各機関の今年度の地域・職域連携推進事業の取組み状況について</p> <p>(2) 意見交換</p> <p>来年度の取組みについて</p> <p>(3) 情報提供</p> <p>ア 岡崎労働基準監督署管内のストレスチェック制度の状況</p> <p>イ がんセンター中央病院における就労相談について</p>	<p><地域・職域連携推進ワーキング 第 1 回></p> <p>【成果】</p> <p>○昨年度から参加依頼した全国健康保険協会愛知支部と事業所 1 社は、有意義な会であると、引き続き参加していただいた。</p> <p>○特定健診・特定保健指導の情報を、皆で共有できた。</p> <p>○今年度、各機関が取り組む保健事業の情報交換を実施。新たな事業や重点的に取り組む事業の情報など、地域と職域相互で共有することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>○学識経験者から、この会議は何をすところか、いつもモヤモヤして終わってしまう、と意見があった。</p> <p><地域・職域連携推進ワーキング 第 2 回></p> <p>【成果】</p> <p>○地域の健康指標等の情報を皆で共有できた。</p> <p>○健康情報紙について、方針を検討した。昨年度実施後効果が見られなかったこと、市町の健診(検診)はすでに個別に案内しているため、継続実施は不要と判断し、中止することとした。</p> <p>○労働基準監督署とがん拠点病院に情報提供を依頼し、地域と職域が情報を共有できるようにした。</p> <p>(別の打合せで、岡崎市保健部健康増進課から、毎年健康課題として上がる項目について、分析していきたいと話があり、来年度から取り組むこととした。)</p> <p>【課題】</p> <p>○学識経験者から、事業を実施していると、何のためにどんな目的でやっているのか、曖昧になってくることもある。環境に合った形で、出来るだけ効果的かつ効率的にやる方がよい。今日の議論は良かったと思うと助言があった。健康情報紙については、皆の意見を確認する中で、事業評価を行ったが、他の事業については、評価していないことが、課題である。</p>
<p>東三河北部 (新城)</p>	<p>【内容】</p> <p>テーマ「脳血管疾患予防を中心とした生活習慣病予防のための環境づくり」</p> <p>(1) 受動喫煙防止対策について ～健康宣言を活用した環境づくりの推進～</p> <p>(2) 健康情報ステーションを活用した減塩への働きかけ</p> <p>～塩分味覚度チェックの実施結果をふまえて～</p> <p>(3) 成人期・高齢期の歯周病予防対策について</p> <p>～「愛知県歯科口腔保健基本計画」の中間評価をふまえて～</p>	<p><第 1 回></p> <p>平成 29 年 8 月 9 日(水)</p> <p><勉強会とグループワーク></p> <p>①保健所保健師から管内の健康課題について報告</p> <ul style="list-style-type: none"> 管内は脳血管疾患の死亡比が高く、40～54 歳の男性の喫煙率が高い。 愛知県民の塩分摂取量は目標値よりも摂り過ぎで、野菜摂取量は目標値よりも少ない。 	<p><地域・職域連携推進ワーキング 第 1 回></p> <p>【成果】</p> <p>①管内の診療所に赴任された診療所の医師に講師を依頼したことにより、地域の医師に管内の健康問題を認識してもらえた。</p> <p>②減塩対策・受動喫煙防止対策の必要性について関係者に認識してもらえた。</p> <p>(連携事業：圏域健康づくり推進研修会)</p>

地域・職域連携推進協議会内容

地域・職域連携推進ワーキング内容

連携事業

<p>東三河北部 (新城) 続き</p>	<p>【結果】</p> <p>(1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・受動喫煙防止対策実施施設の認定数をカテゴリー別に出し、そのうち母数が明確な医療施設は認定率を示した。この3年間に新規開設された医療施設に働きかけができていないことから、三師会に協力依頼したところ了解が得られた。 ・受動喫煙防止対策が選択項目の中にある「健康宣言」について、協会けんぽから説明してもらい、健康宣言を活用した環境づくりを促した。 <p>(2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東三河地区栄養改善連絡会で今年度6月から来年度3月まで行うことになった塩分味覚度チェックの、新城保健所実施分87人の結果について報告。塩分チェックシートの結果は、全体では約2割の人が塩分摂取量が多い傾向があったこと、男性では食塩摂取量が多い人が6割いたこと、ソルセイブ検査の結果は、0.8%の塩分(薄味)を感じない人は約1割、薄いと感じた人・感じない人は約5割いたこと等を報告。また、チェックシートの合計点を塩分摂取量が少ない群と摂取量が多い群を比較したところ、塩分摂取量が多い郡に塩味を感じない人や味を感じない人の割合が僅かに多く、男女別では塩味を感じない人は男性に多いことを報告した。 ・野菜摂取促進・減塩対策の普及啓発を目的に、管内の健康課題やメニューを記したリーフレットを保健所と管内市町村の担当者で作成し、2月に管内27施設に設置した健康情報ステーションにリーフレットを置いたことを報告。 <p>(3) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「愛知県歯科口腔保健基本計画」の中間評価の結果、・中間評価をしたところ、成人期・高齢期の評価が良くなっていなかったことを報告。 ・県歯科医師会に委託し、成人期口腔ケア推進事業として協会けんぽの協力で調査され、「喫煙者の歯の本数は、非喫煙者に比べ少なく、歯周病のリスクが1.5倍高い。」「定期歯科検診を全く受けていない者に、要精密検査と判定される者がより多くいた。」等の結果が得られ、その結果をもとにリーフレットが作成されたことを報告。 ・来年度から特定健診の間診項目に「歯について」の内容が追加されるため、定期的な歯科健診に結びつけて欲しいこと、リーフレットを活用して欲しいことを伝える。 <p>【評価指標に基づく結果・考察】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・参加事業所の健康管理担当者には、この地域の健康課題を伝えることができた。 ・有所見率等のデータの推移は、経年的なデータを見ていくことが必要である。 ・昨年度は「健康情報ステーション」は、協議会参加事業所のうち1事業所のみを設置であったが、昨年度の協議会をとおして協力を呼びかけたところ、今年度は参加事業所のうち2事業所の協力を得ることができた。全体では、昨年度の設置箇所は13箇所であったが、今年度は27箇所に増やすことができた。設置をとおして、野菜摂取促進や減塩対策として「だし」の活用を促す啓発を行うことができた。また、事業所の食堂委託会社の協力を得て野菜たっぷりメニューを提供することができた。 	<p>②「脳血管予防・高血圧予防のために」について脳神経外科の専門医から話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・女性の脳血管疾患の死亡比が高い要因の一つとして、心疾患が関係している可能性があり、内服治療が継続されるような支援が必要である。 <p>③各機関での脳血管疾患の発病予防・重症化予防の取組状況、各機関で協力できそうなこと等をグループワークし発表。</p> <p><第2回></p> <p>平成29年11月20日(月)</p> <p><話題提供・体験と情報交換・意見交換></p> <p>①保健所保健師から第1回ワーキングの振り返りをし、塩分の過剰摂取や喫煙により血圧が上がる理由を確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> 受動喫煙防止対策実施施設として登録されている管内の官公庁と事業所の紹介。 ②塩分チェックシートの記入、及び塩分味覚度チェックの体験。 喫煙によるお口への影響・減塩対策について話題提供。 ③事業所及び各市町村での減塩対策の取組状況について、情報共有する。 ④受動喫煙防止対策実施施設の推進について協議。 ⑤協会けんぽにおける禁煙指導状況について報告・情報共有。 	<p>【課題】</p> <p>減塩対策はもう必要ないのではないかと考えているメンバーもいたため、健康課題を提示しながら、その必要性について伝え続けていくことが必要。</p> <p><地域・職域連携推進ワーキング 第2回></p> <p>【成果】</p> <p>①地域・職域保健の担当者が塩分チェックシートや味覚度チェックを体験することにより、担当者自身も塩分摂取量が多いことを自覚し、環境づくりをする必要性を実感してもらえた。</p> <p>②食堂に減塩対策として調節型の醤油さしを置くことが勧められていることを話題に出し、置いていない事業所に啓発することができた。</p> <p>③所属先が建物内禁煙になっているが未登録のメンバーに、申請を促し、会議後登録につなげることができた。</p> <p>【課題】</p> <p>受動喫煙防止の環境づくりを推進したくても、所属長や上司が喫煙者の場合は思うように進めることができず、地域(社会)全体で啓発を続けていく必要性を感じた。</p>
------------------------------	---	---	---

東三河北部 (新城) 続き	地域・職域連携推進協議会内容	地域・職域連携推進ワーキング内容	連携事業
	<p>・受動喫煙防止対策実施施設の認定状況を協議会で示し、薬局の認定率が低いことを伝えたところ、薬剤師会をとおして申請を呼びかけてもらえることになり認定施設を増やすことができた。</p>	<p><第1回> 平成29年7月19日(水)</p> <p>1 東三河南部医療圏における健康課題と対策 2 圏域としての取り組みについて 3 情報交換</p> <p><第2回> 平成29年11月6日(水)</p> <p>1 企業・事業所における給食施設のアンケート結果について 2 グループワーク</p> <p>「社員の健康を守る食環境整備の推進に向けて」</p>	<p><地域・職域連携推進ワーキング 第1回></p> <p>【成果】</p> <p>・地域の健康課題、糖尿病対策および健康づくりの取り組み状況、受動喫煙防止対策について関係者間で情報共有することができた。</p> <p>・「企業・事業所における給食施設」のアンケート(案)について、関係者と検討することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・中小企業の食環境の実態把握が難しい。</p> <p><地域・職域連携推進ワーキング 第2回></p> <p>【成果】</p> <p>・アンケート結果により、関係者が、事業所における給食施設の取り組み状況について情報共有し、給食施設で健康に配慮した取組の推進に向けて検討することができた。</p> <p>【課題】</p> <p>・給食施設の売れ筋は、とんかつ、からあげ等、満腹感が得られるメニューであり、ヘルシーメニューを提供したくても売れなければ業者は推進が難しくなる。</p> <p>・健康づくりに関心のない人へのアプローチ策。</p> <p>・中小企業が健康づくりに取り組むための社長への働きかけ。</p>
東三河南部 (豊川)	<p>【内容】</p> <p>1 平成29年度東三河南部医療圏地域・職域連携推進事業の実施状況について 2 平成30年度東三河南部医療圏地域・職域連携推進協議会計画書(案)について</p> <p>【結果】</p> <p>・全国労働衛生週間において衛生管理者等を対象に社員の健康を守るための食環境について健康教育を実施し、その後、企業・事業所における給食施設についてアンケート調査を行った。アンケート結果により、ヘルシーメニューおよび健康経営の推進に向けて、それぞれの立場から意見を聞くことができた。また、地域と職域が協働した取組が健康づくりおよび健康管理に有効だった事例の情報提供により、お互いに協力して取組む大切さについて関係者が再認識する機会となった。</p> <p>・平成30年度計画書(案)の提案について、承認を得た。</p> <p>【評価指標に基づく結果・考察】</p> <p>1 衛生管理者等の健康意識の変化</p> <p>健康教育により80%の衛生管理者等が「自身および社員の健康を守るために、職場における食環境の工夫が必要であると再認識できた」と回答しており、概ね良い方向に向った。</p> <p>2 会議における地域と職域の関係者による発言内容</p> <p>ワーキンググループで出された関係者からのさまざまな意見に対し、助言者からヘルシーメニューおよび健康経営の推進に向けて、視点の当て方や考え方等について助言を得ることができた。</p> <p>3 関係者における働く世代の食事に関する認識または取組の変化</p> <p>ワーキンググループにおけるアンケート結果の還元により、関係者が「企業・事業所における給食施設」の現状を把握することができ、また、今後に向けて、社員教育や食環境の工夫等、前向きな意見が聞かれた。</p>		

課題一覧

医療圏 (保健所)	課 題 の 内 容
尾張西部 (一宮)	<ul style="list-style-type: none"> ・啓発活動の評価ができるデータが少ない。 ・行政区という小さい単位のデータ分析は国保データしかなく、職域の分析が十分できない。 ・まだまだ、連携は充分でなく、連携一覧表の管理や有効活用についてみていく必要がある。
尾張東部 (瀬戸)	<ul style="list-style-type: none"> ・特定健診受診率は高いものの、特定保健指導終了率は、年によりばらつきがある。健診結果を踏まえて、生活習慣病を予防するための次の行動につながっていない可能性がある。 ・異動等により、ワーキング出席者が変わるため、本事業の目的や、各機関の役割等について、繰り返しの啓発が必要。 ・健診結果を活かしてもらうためには、受診者に結果を渡す時に一工夫できるとよい。
尾張北部 (春日井)	<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりに対する無関心層へのアプローチについて ・関係機関と協働した取組み ・医師会等との連携について ・受診率向上と、有所見者が放置しないための取組
尾張中部 (清須)	<ul style="list-style-type: none"> ・職域保健関係者が従業員の健康づくりのために有効活用できるような、地域社会資源の提示がされていない。 ・一部の商工会健診について、健診結果が保険者に提供されることとなっておらず保健指導につなげることができていない。
海 部 (津島)	<ul style="list-style-type: none"> ・若い世代として、20歳から30歳代を対象としたが、働いている世代であり、市町村事業での関わりの中となると、乳幼児健診時に関わる保護者が主な対象となり、世代全体への働きかけは難しい。 ・市町村によっては、ガソリンスタンドや農協などに出向き、啓発物品の配布を行う予定をしているところもあるが、協力が得られる事業所は限られ、活動の拡大方法は検討を要す。 ・平成28年度に海部全域での取り組みとして、糖尿病発症予防、重症化予防について、全国健康保険協会愛知支部及び市町村と協働して具体的な検討を行い実施していくこととしていたが、今年度は、現状の連携のみで具体的な取り組みの検討までいたらなかったため、来年度以降、行う必要がある。
知多半島 (半田)	<ul style="list-style-type: none"> ・がん検診受診率向上に向けた取組を進める中で、受診率向上という目に見える結果に結びつくには時間がかかっているが、新たな体制整備や連携につながっている。 ・がん検診が職域保健では任意であるため、がん検診の受診率向上に対する取組に職域保健関係者が積極的に関わりにくかったことも課題であった。 ・次年度からは新たな切り口（地域及び職域が保有しているデータを広く活用した、知多半島地域の健康課題と対策について）で取組を開始することとなるが、がん検診受診率及び精検受診率の向上については、今後も引き続き行っていく必要がある。
西三河南部西 西三河北部 (合同) (衣浦東部)	<ul style="list-style-type: none"> ・提示した課題以外の各市の課題の全体像について把握できていない。 ・見えている課題について、柔軟に検討するところまでに至らなかった。 ・職域分野では、複数の事業所を担当する健康保険組合と、単独事業所の健康保険組合とでは、課題は一律ではなく、取組みの方向性を十分検討する必要がある。 ・また、職域分野と地域分野とで、必要な情報の認識上のギャップが生じている。
西三河南部東 (西尾)	<ul style="list-style-type: none"> ・学識経験者から、この会議は何をやるどころか、いつもモヤモヤして終わってしまう、と意見があった。 ・学識経験者から、事業を実施していると、何のためにどんな目的でやっているのか、曖昧になってくることもある。環境に合った形で、出来るだけ効果的かつ効率的にやる方がよい。今日の議論は良かったと思うと助言があった。健康情報紙については、皆の意見を確認する中で、事業評価を行ったが、他の事業については、評価していないことが、課題である。
東三河北部 (新城)	<ul style="list-style-type: none"> ・減塩対策はもう必要ないのではないかと考えているメンバーもいたため、健康課題を提示しながら、その必要性について伝え続けていくことが必要。 ・受動喫煙防止の環境づくりを推進したくても、所属長や上司が喫煙者の場合は思うように進めることができず、地域（社会）全体で啓発を続けていく必要性を感じた。

地域・職域連携推進協議会内容

地域・職域連携推進ワーキング内容

連携事業

医療圏 (保健所)	課題の内容
東三河南部 (豊川)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中小企業の食環境の実態把握が難しい。 ・ 給食施設の売れ筋は、とんかつ、からあげ等、満腹感が得られるメニューであり、ヘルシーメニューを提供したくても売れなければ業者は推進が難しくなる。 ・ 健康づくりに関心のない人へのアプローチ策。 ・ 中小企業が健康づくりに取り組むための社長への働きかけ。